

茨城県陶芸美術館 特集展示

受贈記念

原 清 展

*HARA Kiyoshi
Exhibition*

プレス・リリース

平成25年6月5日(水)～6月23日(日)



原 清「鉄釉蟹文大鉢」
昭和62年(1987)
高8.0×径46.5cm 茨城県陶芸美術館蔵

茨城県陶芸美術館

〒309-1611茨城県笠間市笠間2345番地(笠間芸術の森公園内)

TEL 0296-70-0011/FAX 0296-70-0012

<http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

1 展覧会名 特集展示 受贈記念 原 清 展

2 開催趣旨

平成 24 年度、鉄釉陶器の新たな表現を切り拓いた人間国宝、原 清氏より作品 66 点が当館に寄贈されました。このたびの受贈を記念し、特集展示「受贈記念 原 清展」を開催いたします。

原 清は、昭和 11 年（1936）に島根県簸川郡莊原村（現・斐川町）に生まれました。少年時代を過ごした出雲は、北前船の寄港地で、江戸時代から有田や唐津の陶磁器が渡ってきた土地でした。登下校の途中に拾った染付の古い陶片の美しさに魅せられ、陶芸の道を志します。同 30 年（1955）、19 歳で京都の石黒宗麿に弟子入りし、その 1 年後に清水卯一に師事。近代の鉄釉陶器を代表する二人の人間国宝のもとで学びました。

同 33 年（1958）、22 歳で第 5 回日本工芸展に初入選の後、同 40 年（1965）、東京都世田谷区に工房を築いて独立し、同 44 年（1969）には日本伝統工芸展日本工芸会長賞を受賞。失透性の青い釉薬の地に、銅で紫紅色の斑文を発色させる「鈎窯」の技法で評価を高めました。

昭和 55 年（1980）に埼玉県寄居町に居を移し、様々な技法を手掛けながらも、「鉄釉」の技法で独自の世界を築いていきました。「鉄釉」とは、釉薬中の鉄分を黒や褐色に発色させる技法ですが、原の作品では、草原を悠々と駆ける馬や、風に揺らぐ草花など、身近な自然の世界を題材に、黒と褐色の二色のシルエットが溶けあうように表現されています。平成 17 年（2005）、「鉄釉陶器」の技法で重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されました。

今回、寄贈を受けた 66 点は、原清の代名詞といえる鈎窯と鉄釉のほか、灰釉、黄瀬戸、井戸茶碗、粉引、翠磁、淡翠磁など、多彩な技法を含み、世田谷時代から現在の寄居の窯で制作された近作に至るまで、その長い作陶の歩みを示すものです。

作家の尽きぬ探求心と創造の振幅、原の作陶に通底する柔らかな感性を改めてご覧頂く機会になりましたら幸いです。

3 展示構成

出品総数 66 点

※受贈 66 点のうち、「鉄釉馬文大壺」（平成元年）の 1 点は、当館 1 階 第 1 展示室「新収蔵品展」（5/28～9/16）にて展示いたします。

- I 鈎窯
- II 鉄釉
- III 灰釉・黄瀬戸・粉引・井戸茶碗
- IV 翠磁・淡翠磁

4 会期・会場等

会 期：平成 25 年 6 月 5 日（水）～6 月 23 日（日）

会 場：茨城県陶芸美術館 2 階県民ギャラリー

開館時間：午前 9 時 30 分から午後 5 時まで（入館は午後 4 時 30 分まで）

休 館 日：月曜日

5 主催

茨城県陶芸美術館

6 観覧料

一般 300(250)円／高大生 250(200)円／小中生 150(120)円

*（ ）内は 20 名以上の団体料金、満 70 歳以上の方、障害者手帳、療育手帳をお持ちの方及び付き添いの方 [ただし 1 人につき 1 人まで] は無料、土曜日は高校生以下無料
※開催中の企画展「没後 10 年 松井康成展」（～6 月 16 日（日））をご覧の方は原清展も併せてご覧いただけます。

7 連絡先

茨城県陶芸美術館 〒309-1611 笠間市笠間 2345 番地（笠間芸術の森公園内）

TEL.0296-70-0011 / FAX.0296-70-0012

展覧会担当 学芸課 副主任学芸員 花井 久穂 hanai.hisaho@mail.ibk.ed.jp

広報担当 企画管理課 主任学芸主事 中島 淳 kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp